

オリンピック・パラリンピックレガシーの創出 「ホームステイ・ホームビジット支援事業」を始動

杉並区と杉並区交流協会は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシー創出として、大会を契機とした国内外の交流自治体等の住民と杉並区民との交流を促進する「ホームステイ・ホームビジット支援事業」に取り組みます。

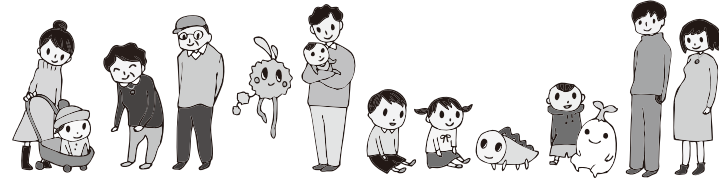
杉並版ホームステイ・ホームビジット事業は、国内9自治体・海外に3つある交流自治体等と杉並区の住民同士の交流を目指すものです。

ホームステイは、ホストファミリーが国内・国外の交流自治体の住民を受け入れ、寝食をともにしながら区内の祭りや日本の伝統・文化を体験してもらうものです。

ホームビジットは、ゲストを自宅に招き食事をともにするなど交流を行います。

このような事業をきっかけに、ホストとゲストの関係から、更に一歩進んだ信頼関係を築くことが期待されます。

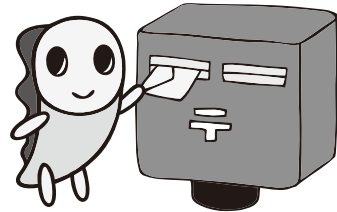
今年度は、こうした住民同士をつなぐ仕組みと、これをサポートする仕組みをつくり、ホストファミリーが増えることで、住民同士の交流を広げる事業につなげていきます。



読者の皆さまへ

いつも「すぎなみ交流ニュース」をお読みくださりありがとうございます。

次号のニュースで、杉並区内の国際交流にゆかりのある名所旧跡を取り上げたいと考えています。そのような場所を広く集めたく、皆さまへご協力をお願いします。簡単に場所と内容を手紙・Eメール等で杉並区交流協会までお知らせください。送り先は1ページをご参照ください。



Event Information from SACE 交流イベント情報

◆ 交流協会からのお知らせ ◆

●ベトナム語講座（入門）

経験豊富なベトナム人講師から、楽しくベトナム語を学びましょう。

◇日時：9月27日～11月29日
毎週木曜日（計10回）
13:30～15:00

◇参加費：《一般》13,000円
《会員》12,500円

◇場所：杉並区交流協会

◆ 国内交流自治体からのお知らせ ◆

●吾妻の朝市

群馬県東吾妻町の新鮮な農産物の販売

◇日時：7月27日（金）、8月31日（金）、
9月21日（金）10:00～13:00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

●小千谷フェア

新潟県小千谷市の新鮮野菜や魚沼産コシヒカリなどの販売

◇日時：7月22日（日）、8月26日（日）、
9月23日（日）11:00～13:30

◇場所：小千谷学生寮駐車場
（井草4-16-23）

●小千谷ふるさと市場

新潟県小千谷市の特産品販売

◇日時：9月3日（月）10:00～14:00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

●北塩原村観光物産展

高原野菜をはじめ、温泉を煮詰めて作った

山塩や花豆などの特産品販売

◇日時：9月6日（木）～7日（金）
10:00～15:00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

●青梅市観光展・写真展

東京都青梅市の特産品販売と観光写真の展示

◇日時：7月17日（火）～18日（水）
10:00～15:00（物産販売）
9月10日（月）～11日（火）
10:00～15:00（物産販売）

◇場所：区役所中杉通り側入口前

9月10日（月）10:00～14日（金）
15:00まで（写真展）

◇場所：区役所中杉通り側入口前（物産展）
区役所2階 区民ギャラリー（写真展）

●北海道名寄市 ひとあし早い秋の収穫祭

名寄産とうもろこし、じゃがいもなどの販売

◇日時：9月13日（木）～14日（金）
10:00～15:00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

●南伊豆観光物産展

伊勢海老の味噌汁試食サービスほか、干物

や海藻など南伊豆町の特産品販売

◇日時：9月18日（火）10:00～14:30

◇場所：区役所中杉通り側入口前・
1階コミユルショップ前

※いずれも雨天実施。物産販売は売り切れ次第終了となります。

マイバッグ（買い物袋）をご持参ください。

問合せ：区役所文化・交流課交流推進担当

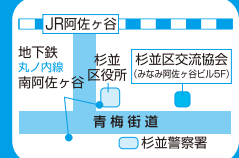
☎03-3312-2111（代表）

すぎなみ交流ニュース

第49号
2018年7月

Suginami Cultural Exchange News

수기나미 교류 소식
杉並的交流消息



◆発行：杉並区交流協会 [Suginami Association for Cultural Exchange (SACE)]
〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階
[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail:info@suginami-kouryu.org

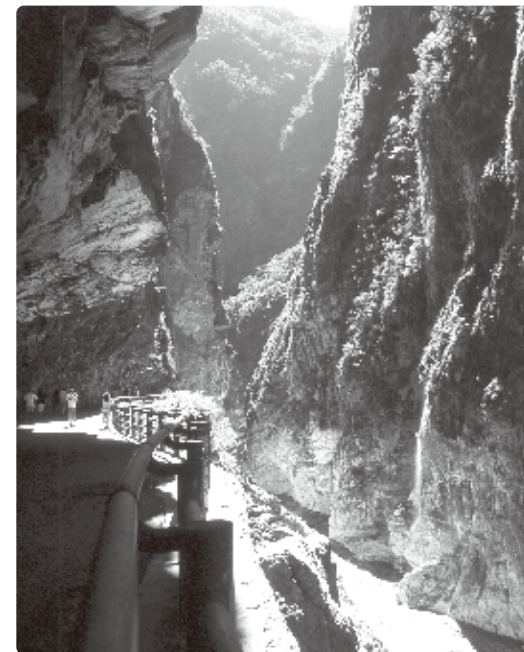
<http://www.suginami-kouryu.org/>

◆年4回発行 ◇協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。

目次

ウェルカムパーティ2018開催 2
まるごと台湾フェアレポート 3
「ホームステイ・ホームビジット支援事業」を始動 読者の皆さまへ ほか 4

台湾の歴史・文化を訪ねて 台湾友好親善ツアー 2018 花蓮



太魯閣峡谷
画像提供：台湾観光局/台湾観光協会

日本と台湾の交流の歴史を訪ねて、台湾の人々と友好を深める旅です！
今年は、台湾東部の観光都市「花蓮市」を訪れ、花蓮や台湾の代表的な景勝地「太魯閣峡谷」を楽しんでいただきます。



画像提供：楊均濂

また、6月に開催した「まるごと台湾フェア」で講演していただいた、花蓮を拠点に活躍されている藤樫寛子さんに、花蓮の見どころを案内していただきます。他に日本統治時代の施設を訪ねるなど、杉並区交流協会ならではの企画です。

【行程】	12月14日（金）～17日（月）3泊4日 全食事付き
【訪問先】	1日目 花蓮市内宿泊 2日目 花東公路、三仙台 3日目 太魯閣峡谷、宜蘭 4日目 野柳、台北市、帰国
【定員】	30名（申込順）
【参加費】	108,000円（2名1室の場合） ※一人部屋追加料金がかかります。詳細はお問い合わせください。
【その他】	成田空港集合、羽田空港解散。
【申込み】	7月10日（火）～8月31日（金）17:00までに 東洋旅行（☎03-6272-6588）へ（平日 9:30～18:30）
【問い合わせ】	杉並区交流協会 ☎03-5378-8833（平日 8:30～17:15）

詳細は、同協会ホームページ参照

ベトナム語講座（入門）

経験豊富なベトナム人講師から、入門レベルのベトナム語を楽しく学びます。

全10回 木曜日 9月27日スタート!

日時	9/27、10/4、10/11、10/18、10/25、11/1、11/8、 11/15、11/22、11/29 毎木曜日 [10回] 13:30～15:00
講師	グエン ティ ビック ジェップ先生
場所	杉並区交流協会（杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階）
定員	12人（先着順）
参加費	《一般》13,000円 《会員・学生》12,500円（教材費込み）
申込方法	講座名、住所、氏名、電話番号、学生の方は学校名を記載し、E-mail、Fax、または電話にて杉並区交流協会まで



グエン ティ ビック ジェップ先生

交流協会の会員になりませんか？ 杉並区交流協会では、国内・国際交流の推進をはかるために、様々なイベントを企画しています。あなたも会員になって、楽しく交流しませんか？

年会費
・個人会員 1,000円/年
（9月以降入会の場合は初年度に限り500円）
・法人会員 20,000円/年
会員期間
入会の月から3月31日まで（当年度末）

会員特典
① イベントの情報や交流に関する情報紙 [交流ニュース（年4回発行）・NEWS LETTER（年8回発行）など] をお届けします。
② 協会が実施するイベントに優先的に参加できる会員枠があります。
③ イベント参加費に会員割引があります。

申込方法
入会希望の方は杉並区交流協会まで電話・ハガキ・Fax・E-mailにより申込書類をご請求ください。



HP・Facebook 随時更新!!

杉並区交流協会

検索

ようこそ ウェルカムパーティー2018開催 杉並へ!

2018年5月19日(土) 於:杉並第一小学校

杉並区に住む外国人に、暮らしに役立つ知識を学びながら、区民との交流を深めてもらおうというイベント「ウェルカムパーティー2018」が今年も開催されました。当日は、留学生を中心に外国人76名(30カ国・地域)、日本人68名、関係者・ボランティア等108名の総勢252名が参加。午前中は「防災体験」の他、交通ルールやゴミ出しなど暮らしに役立つ知識を学び、午後はレクリエーションで互いに交流を深めるなど、初夏の一日を楽しく過ごしました。(広報1)

さあ、 やってみよう!

班ごとに各コーナーをまわり「防災体験」。消火器の使い方、非常用ロープの結び方、救命救急などを体験した他、交通ルールや自転車のマナー、ゴミの分別方法などを学びました。日本語がよくわからない人も、見よう見まねで挑戦!もちろん教える側も真剣そのもの。明日からの生活に役立てて下さい。



そっと運んでね!



「日本語より難しい!」との声も



交通ルールを学びます



分別方法わかりましたか



レバー操作も体験



さあ、消しますよ!

お待ちかねのお昼はアルファ米を使って
みんなでおいごりを作りました。



LUNCH TIME

みんなでゲーム!

午後からは体育館でレクリエーションタイム。じゃんけんやジェスチャーで盛り上がりました。ゲームに参加した人は誰もが笑顔。勝者や発表者には惜しめない拍手。それを見ている私たちも自然に笑顔。言葉は通じなくても、笑顔と相手を思う気持ちがあれば、心は通じあえる。杉並に暮らす外国の方がいつも笑顔でいられるように、私たちもできるだけ協力していきたいと思いました。



長い輪を作ります



正解は「益踊り」

参加者(30カ国・地域)

アメリカ、アルゼンチン、イタリア、インド、インドネシア、カナダ、韓国、カンボジア、キルギス、ケニア、シンガポール、スペイン、タイ、中国、台湾、香港、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、フランス、ベトナム、ポーランド、マレーシア、ミクロネシア、ミャンマー、モンゴル、ラトビア、ロシア、日本

主催:杉並区交流協会 共催:杉並区
協力:杉並警察署 杉並消防署 杉並消防団第6分団 阿佐ヶ谷結索道場 災害支援ボランティア(杉並消防署) 杉並清掃事務所 杉並区防災課 東京ガス(株) 東京都葛飾福祉工場 社会医療法人河北総合病院 NPO法人すぎなみ環境ネットワーク 丸美屋食品(株)

環島 ディスカバー台湾「まるごと台湾フェア」レポート

2018年6月9日(土) 10:00~17:00 於:セシオン杉並

2013年に始まった「まるごと台湾フェア」は今年6回目。きっかけは2011年12月に行われた台北市と杉並区の中学生親善野球交流でした。この事業に東日本大震災の被災地南相馬市(杉並区の災害時相互援助協定自治体)の子どもたちも参加できるように尽力し、台湾政府による招待という形にくださったのが台北駐日経済文化代表処(以下、駐日代表処)です。杉並区では台湾の人たちの心意気に応えようと、台湾の魅力を多角的に紹介する「まるごと台湾フェア」を企画しました。

野球交流には他の交流自治体も加わり、台北市と杉並区を交互に訪問し野球技術を向上させながら友情を育む交流が続いています。2015年には台湾国立戯曲学院(10年一貫教育で台湾伝統芸術を担う人材養成機関)と交流協定を結び、「東京高円寺阿波おどり」の台湾公演を実現しました。台湾ツアーは今年3回目(1面参照)。駐日代表処や関係機関、台湾の専門家とのネットワークを広げながら、まるごと台湾フェアは回を重ねるごとに内容を充実させています。(広報部T)

●日台の一層の人的交流の広がり

オープニングセレモニーでは、田中良杉並区長が今後もさらに杉並区と台湾の交流を発展させていきたいと抱負を述べ、駐日代表処政務部王瑞豊次長からは、まるごと台湾フェアの開催に感謝しますとご挨拶がありました。王次長によると、訪日台湾人は人口の約4割にあたる460万人。一方、台湾を訪れた日本人は約189万人。台湾フェアを通じて相互理解が深まり、さらに日台の人的交流が広がっていくことが期待されます。

●充実したプログラム

展示室では、台湾観光の紹介に加えて、原住民の民族衣装や物品の展示と販売、台湾映画のDVDや書籍の販売、台湾伝統人形劇「布袋劇」の作品の人形展示などが行われ、隣接スペースでは、「環島、ディスカバー台湾」にちなんで興味深い講演が映像を交えて繰り広げられました。テーマと講演者は次のとおり。



原住民の紹介コーナー
赤いベストはタイバル族の民族衣装



「Thunderbolt Fantasy Project」布袋劇人形展示
©2016-2018 Thunderbolt Fantasy Project



澎湖島の魅力を語る片木裕一さん
玄武岩からなる90もの島々でみられる多様な柱状節理の地景観に目をみはることでしよう。台湾でもっとも古い媽祖廟(1592年)は澎湖島にあります。

「風の吹く島 澎湖島」(片木裕一さん)、「花蓮の魅力について」(藤樫寛子さん)、「『環島』ミニ解説」(一青妙さん)。また、台湾の短編アニメ上映もありました。

中庭の食文化コーナーでは、中華ちまき、ビーフン、小籠包などの台湾料理、タピオカミルクティーやパイナップルケーキなどのデザートメニューが例年以上に充実していたように思います。

因みに今年のテーマである「環島」は、台湾を一周するという意味で使われています。2007年に上映された映画「練習曲」の中で、環島の目的を尋ねられた主人公が「今やらなければ、一生できないことがある」と語ったセリフに共感を覚えた観客を中心に自転車環島が流行になったということです。最近では徒歩で環島する人も増えています。台湾一周1000キロを10日前後で回るのが一般的。2度環島した一青妙さんは、2017年に『環島』

ぐるっと台湾一周の旅』を出版しました。

電車や飛行機での移動と異なり、経路上にある各地の歴史や文化や人との出会いを楽しむ自転車や徒歩での環島が目玉されるのは、忙しすぎる生き方の見直し背景にあるのかもしれない。

●映画製作の起点は まるごと台湾フェア

ホールでは午後から「ママ、ごはんまだ?」の特別上映会と一青妙さんのトークショーが開催されました。映画の原作は一青妙さんのエッセイ。台湾人父と日本人母の間に生まれた妙さん・竊さん姉妹が母の残した台湾料理のレシピを通じて、家族の絆を再確認する温かく、切なく、また笑いもある素敵な映画でした。

上映会では予定になかった白羽弥仁監督がステージに現われてびっくり。白羽監督からは、まるごと台湾フェアで一青妙さんが講演することを覚えて神戸から駆けつけ、映画化を申し入れたエピソードが紹介されました。4年前のことです。人と人とを結びつける地方自治体の取り組みがもつ可能性に心が躍るお話でした。



花蓮の魅力を語る藤樫寛子さん
人口33万人の花蓮は、原住民、客家、漢民族が3分の1づつ。かつては日本人移民村もあった地域で、台北など西海岸とは一味違った台湾に出会えます。



「環島」のミニ解説をする一青妙さん
環島の交通手段も回り方もそれぞれ。自分に合った方法で経路の空や風や光の変化を楽しむ台湾周遊の旅に出かけましょう。



「ママ、ごはんまだ?」の誕生まで
上映会に続いて開催された一青妙さんと三谷啓子さんのトークショー

参加者の感想(アンケートより)

- ◆布袋劇人形展示を初めて見ました。すごくきれいでまた展示して欲しい。
- ◆展示室の原住民の方が少し歌ってくれて、とっても素敵でした!
- ◆家族、食、人生、いろいろ考えさせられました。(映画)
- ◆一緒にごはんを食べることの大切さを感じました。(映画)

杉並区と台湾のつながり再発見

杉並区の外国籍住民は11,521人(2015年)。5位の台湾は717人(6.2%)。東京都の集計上位10カ国・地域に台湾は含まれていません。全国統計では台湾は8位で割合は2.2%。このデータを見てから、杉並区に台湾の人たちが多いのはなぜだろう、というのが私の関心事になりました。この疑問に答えてくれたのが『台湾人の歌舞伎町一宿、もうひとつの戦後史』(稲葉佳子・青地憲司著、紀伊國屋書店、2017年)です。

同書によれば、焼け野原になった歌舞伎町にいち早く進出してきたのが台湾の人たちでした。林以文さんは1937(昭和12)年に中央大学に内地留学し、戦後も日本に留まりエンターテインメントや不動産事業を手広く展開した事業家で、「ムーラン・ルージュ」を復活させた人でもあります。林以文さんは高円寺に住み、事業の拡大に伴い増えた従業員のために荻窪や阿佐ヶ谷にアパートを建て、借家を確保していました。台湾の人たちは助け合って生活基盤を整えてきましたから、杉並区に台湾の人たちが多いのはこの名残かもしれません。